

事例10 「ふれあいサロンみちくさ」における居場所づくり・社会参加支援

●主な事業主体、連携主体

桑名ボランティア連絡協議会、桑名市障害者団体連絡協議会、桑名市社会福祉協議会

●現状、課題

地域社会には、さまざまな理由で生きづらさを抱えている方がいます。そうした中で社会とのつながりが切れてしまうと精神的な不安や焦りが生じてしまい、社会復帰するまでの大きなハードルとなります。社会復帰する前段階として、まずは社会参加という形で気兼ねなく行くことのできる居場所は不安や焦りをやわらげ、復帰に向けた歩みを踏み出すきっかけとなり得ます。

桑名市でもその緩やかな居場所づくりのため、ボランティア団体と当事者団体、社会福祉協議会が協働して取組を始めることになりました。

●取組概要

世代や障がいの有無を問わず誰もが参加出来、穏やかな時間の流れの中で人や社会とのつながりを再構築できる場所として、桑名ボランティア連絡協議会と桑名市障害者団体連絡協議会、桑名市社会福祉協議会が協働して令和3(2021)年2月に「ふれあいサロンみちくさ」をオープンしました。

このサロンは、毎日多くの方々が訪れる桑名市総合福祉会館で開催しています。毎回たくさんの参加者で賑わい、コーヒーを提供したりミニコンサート等を開催したりしています。そして、社会参加の一環としてまずはサロンに来ることから始め、慣れてきたらコーヒーを淹れることにチャレンジし、実際に席まで運ぶことに取り組んでいる方もいます。ボランティアとして運営を支えている方々も温かく見守って下さり、緩やかな居場所として定着しています。

※【ふれあいサロンみちくさ】の名前の由来

「みちくさ」をする感じで気兼ねなく寄ってもらえる居場所をイメージしました。

【開催日】最終金曜日/毎月 10 時～14 時

【開催場所】桑名市総合福祉会館 1階ロビー(桑名市常盤町 51 番地)



●取組におけるポイント

- ◇サロンでのドリンク提供の際、お心遣いを「こころ箱」に入れてもらう仕組みとしており、運営などの資金としています。
- ◇ミニコンサート等のイベントはボランティア連絡協議会のつながりを活かし、協力をお願いしています。
- ◇サロン開催日は障害者団体連絡協議会の協力のもと、福祉事業所で作ったクッキーやカップケーキを併設して販売しています。
- ◇サロンのお手伝いをしていただいた方には、「こころ箱」の一部から交通費を支給しています。

●居場所への参加を通じた社会参加

「ふれあいサロンみちくさ」に参加しているAさんは、桑名市福祉支援室担当者(ひきこもり相談窓口担当)と桑名市社協地域福祉課担当者(参加支援事業担当)と面談を重ねてきました。初めAさんはコミュニケーションが難しく、時間をかけて信頼関係を築きました。時にはトーンダウンしてしまい、何か月も会えない場合もありましたが、焦らず本人のペースに合わせて面談を続けていきました。

ある時に社会参加の話をしていた際、前向きな気持ちと言葉があったので、本人の希望を聞きつつまずは一人でできる作業として清掃作業の提案をしました。後日、職員と一緒に清掃活動に励み、それがきっかけとなってAさんの活動範囲は大きく広がりました。他にもイベントのお手伝いや倉庫の荷物整理、商品の陳列などの取組を経て、自信をつけたようでした。そして次のステップとして、他者との関わりがある「ふれあいサロンみちくさ」への参加を自ら決めました。

しかし、急に他者と関わることへの不安はあったようで、まずはサロンで担当職員と一緒にコーヒーを飲みながら場になじむことからスタートしました。何回か参加を重ねて慣れてきたところで、初めての接客に挑戦！最初は緊張気味でしたが、サロンのボランティアスタッフから「助かったわ、これからも続けて来てよ！」と声をかけられることでAさんの表情も和らいでいきました。また、幅広い年代の参加者から「ありがとう」の言葉を頂くことで、褒められ、認められ、頼りにされ、それがAさんの「自信」や「やりがい」につながっているように感じます。

また、サロンのお手伝いをすることで交通費が支給されるため、参加する意識の向上につながっているようです。このAさんの取組がよい循環を生み、他にも社会参加の一環としてサロンのお手伝いをしてくれる方が参加をしています。

●今後の展開について

十人十色というように個性や考え方が異なることと同じように「居場所」も多様な形や方法があってよいのではないのでしょうか。何にも縛られない緩やかな居場所は、生きづらさや働きづらさを抱えた方にとって心安らぐ場所であり、次のステップとなる社会参加への一歩となります。多様性を理解し、誰にとっても居心地のよい居場所

をめざして今後も運営を続けていきます。そのためには、地域住民の皆さんの理解は不可欠です。地域共生社会の実現に向け、さまざまな主体が手を取り合って地域福祉が推進されることを願ってやみません。

●本事例に関するお問い合わせ先

社会福祉法人桑名市社会福祉協議会

電話番号:0594-22-8218

メールアドレス:soumu@kuwana-shakyo.com